



向陽だより

杉並区立向陽中学校発行
平成30年10月15日10月号(通算325号)
<http://www.suginami-school.ed.jp/kouyouchu/>

《教育目標》
◇よく考える人
◇思いやりのある人
◇たくましい人
『人間賛歌』の教育

局面を読む

校長 菅野 武彦

今年もやっぱりそうだった。解散式での生徒の表情が一番私の心に残った。修学旅行最終日。班行動を終えた3年生が続々と集まってくる。そして、京都駅前広場での解散式の場面。整列した3年生の表情が違って見える。この2泊3日が生徒の心を動かし表情を変えた。穏やかでキリッとした表情。心で多くを感じ取った表情。充実感いっぱいの表情。楽しかったよという表情。大変だった分満足感いっぱいの表情。修学旅行ばんざーいの表情などなど。私はこうした表情を見るたびに修学旅行の意義を実感させられる。

「3年生の皆さん、お疲れさま。大人に頼らない、自分たちで解決する3日間にすることができましたか。準備してきた学びはできましたか。意外な学びはありましたか。こうすればよかったという反省点を含め、色々な思いがぎゅっと詰まった3日間になりましたね。さあ、この修学旅行で得た経験が生かされ、3年生集団の凝縮性がより高まることを期待します」と私は締めくくった。

10月の全校朝礼。自分軸の形成に少しでもつながることを願い「対話から学ぶ」ことに取り組んでいる。10月は「自分軸～対話的学び～」だった。向陽中生は「授業中、ペアやグループで話し合ったりする時間が多くある」の肯定率が高い(1年生85.2%・2年生90.1%・3年生96.0%)。そこで、その対話的な学びをより充実させるにはどうすればいいかを話し合わせた。話し合いの様子を見ると、どのグループも活発だ。これが向陽中生のいいところ。特に3年生は96.0%が示すように、我が事のように興味津々の様子だ。話し合いを止めるのがはばかれるほど白熱している。話し合い後、必ず各学年一人を指名し発表してもらおう。指名された生

徒は一瞬ドキッとするがこれも経験。3年生の発表はさすがと思える内容が多い。ここでも3年生の存在感を示してくれる。

18日(木)に迫った向陽祭。朝練の一番手はやはり3年生だった。生徒の実行委員会で朝練の開始日が話題となり、結果一週間前倒しの5日(金)から始まった。ある意味局面を読んだ決定であり、やはり3年生としてのプライドが見え隠れする。さて、ここ一週間、朝練と放課後練習を見て回った。合唱の朝練は毎朝の静寂を一変させる。歌声が躍動する。どの学年とも教員総がかりだ。とはいえ、担任も副担任もクラス練習の場にいるが、3年生ともなればほとんど口は出さない。指揮者か伴奏者、またはパートリーダーが、ああだこうだ指摘し合い、皆がよし分かったと反応する。やる気を削がないコメントがいい。よしやるぞ!と、つぎの練習に進む。当初、私は「おい、大地讃頌を甘く見るなよ!」と言いたい気持ちをぐっとこらえながら、つぎのクラスに向けたものだ。

修学旅行後から、昼休みと放課後を使い3年生と4人一組の面談を行っている。ねらいは「その時に向けて今という局面をどう捉え具体的に何をするか」を考えさせることにある。私はこの2学期を「たくましい向陽中を創ろう!」と位置付け生徒に求めている。3年生にはそのたくましさを向陽祭で示すこと、受験を乗り切るたくましさを身に付けることを迫っている。特に後者については一人一人に「何をどうするか」を考えさせ、実践するよう話した。なぜそこまでするかと言うと、受験は甘くないからだ。3年生が思っている以上に受験は大変だから。そのためにも今という局面をしっかりと読んでほしいのだ。

「その時」となる3学期に3年生の表情がどう変わるか。修学旅行とは違った表情が見られるに違いない。がんばれ!3年生。